

篠村 悠人

近畿大学大学院

【作品名】
地球に住まう家

太陽、土、水、緑といった地球を肌で感じられること。
それは我々が生きる上での最高の豊かさであり、時間を超えていく普遍性を持っている。
その豊かさの基盤である地球を整える。
またその行為によって生まれる自然現象を享受できる器を提案する。

郊外：東広島市 -残したい風景-

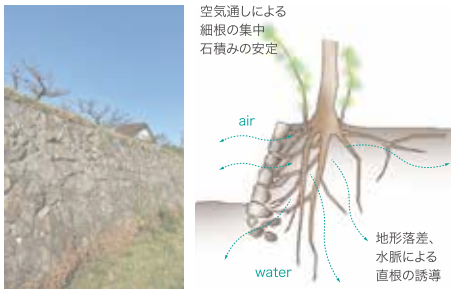
広島県東広島市、田畑に囲まれる豊かな環境の土地を計画地として選定した。近所に住まわれていたご夫婦をベルソナの対象とし、ご夫婦の田畑のある風景を残していきたいという想いを内包した、地球に住む喜びの感じられる住まいを模索する。



昔と今を比べると埋め立てられている場所や放置されている場所が年々増加していることを調査を通して知ることができた。里山の風景を残していくためには、豊かな自然や暮らしを体感することによる、若い世代への意識共有が必要だと感じた。

石垣の健全化 -自然を整える-

里山の個性でもある土留め石垣に注目して計画を進めた。現在の土留め石垣は、石と石の間が塞がれており、空気、水の流れが断たれてしまっている。隙間を埋め固めてしまうのではなく、樹木を植え、そこに根付く根によって保たれ、そして樹木は石垣が作り出す空気や水が抜ける環境によって健康を保つ、自然な共存関係を再構築する。



現在の土留め石垣 樹木と共存する健全な石垣

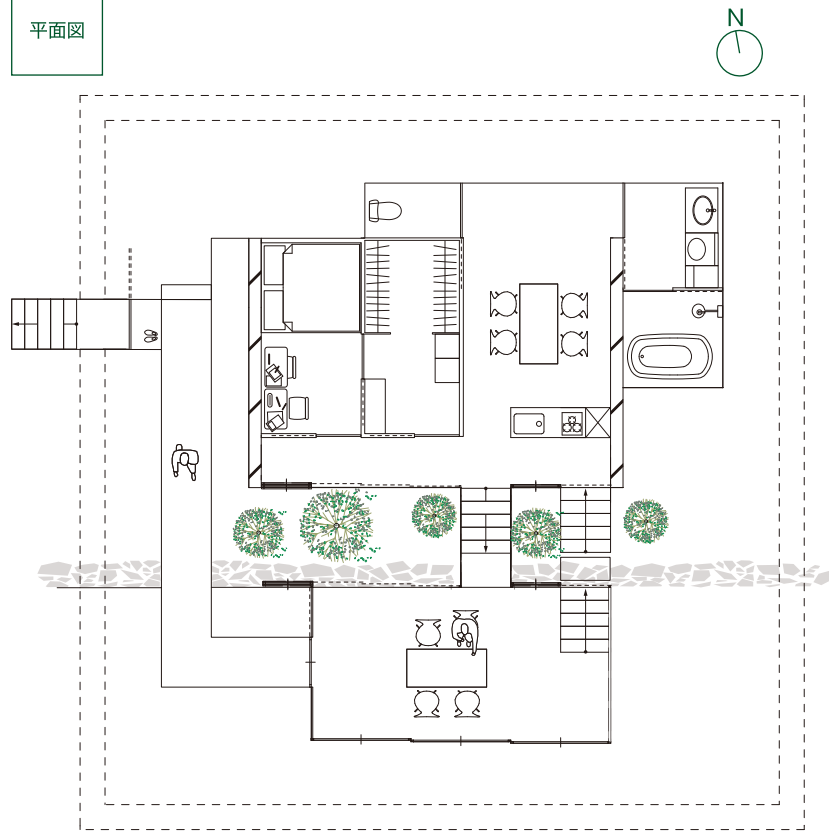
風景と生活をパトする -文化の継承-

建築の構え
敷地を訪れたとき、石州瓦で統一された民家と所々に現れるサビを印象的に感じた。自然との応答によって美しく風化する銅板と変わらない輝きをみせる石州瓦が、この地の風景の構成要素としてふさわしく思えた。



生活のパト -ゲストルームの役割-
農家さんが管理されているとされる田畑を除くと約90田畑が存在する。ベルソナの対象としたご夫婦を例に1世帯に対し3田畑を持ちうる想定すると、30世帯がこの地の生活に魅力を感じ住まうことを願えばこの地の文化、風景は紡がれるだろう。そのためにも他者を受け入れる設え、環境を豊かに享受する工夫など建築計画にできることは多分にあると考えている。

平面図



木製建具を開放すると半外部空間となり、雨、風、光の降り注ぐ中庭、周囲の自然環境と一体となる。夏場には蚊帳を張りゲストルームとして次なる住まい手を歓迎する。



半地下のダイニング。質量、厚みを持ったコンクリートと温かみのある木材に囲まれた落ち着いた空間。大地の蓄熱効果により年中安定した温熱環境を享受する。

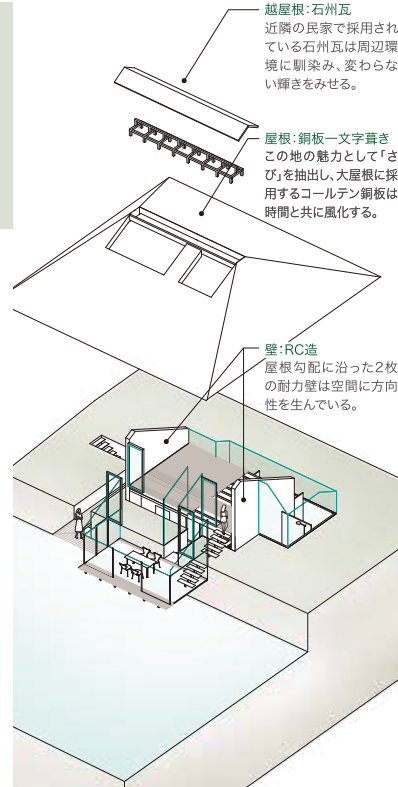
設計コンセプト

計画地へ向き合う課題として石垣に注目した。計画地の石垣は石と石の間が塞がれており、空気、水の流れが断たれてしまっている。そこで、石垣を健全な状態へ導く。またそれによって生まれる豊かさ周囲の自然環境を享受できる住まいを模索した。具体的な建築操作については、リビングの両端部の床をスノコ状としている。そのことによって夏季、水田からの涼風が床から抜け足裏で風を感じる。また、水田に浮かぶリビングの浮遊感を強めている。天井は白い塗装を施し、水面から反射する風景を室内に引き寄せる。水田というこの地の魅力的なキャラクターを今回のテーマである自然素材として扱い設計に取り入れることで、ここでしかない風景、豊かな生活環境を生み出すことに繋がっている。

石垣健全化の際に生まれた中庭の落葉樹は、夏の日差しを遮り、冬の日射を最大化する。天然のブラインドを備えた住まいとなった。1.5階サンルームは、ルーバー床となっており、一部吹き抜けを作ることでダイニングに柔らかな光を落とす。また蚊帳を張りゲストルームとして今後この地に住まうことを検討している家族を歓迎する空間としての広さを確保している。半地下のダイニング、水回り、寝室は、GLから1,700mm下がっており、土の蓄熱効果により年中過ごしやすい熱環境となっている。住まいにおいて安定した生活環境があることにより外部、半外部空間を贅沢に享受できると考える。

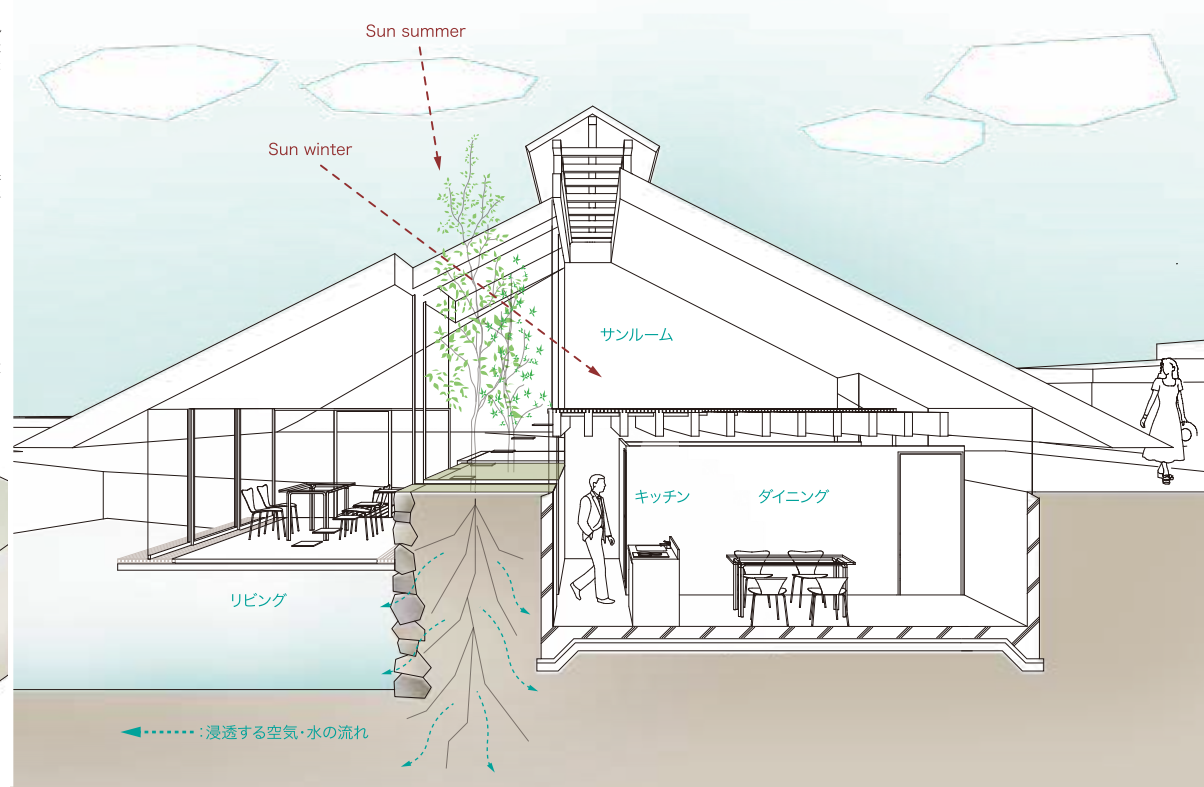
審査委員講評

地域の特性を活かした温熱環境による持続可能な住まいの提案である。その地域での社会的規範による建築の姿形や、そこから導かれる自然に着目し具体的な提案をしている点に好感がもてる。一方、もう少し建築構成要素が人にもたらす働きまで設計ができていたとさらなる可能性が感じられた作品である。



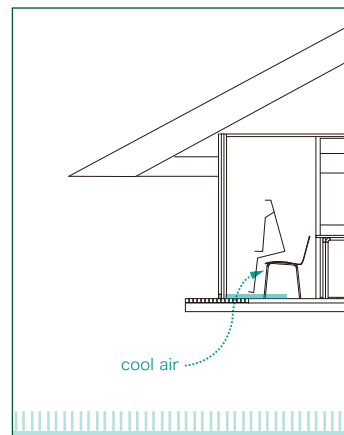
越屋根：石州瓦
近隣の民家で採用されている石州瓦は周辺環境に馴染み、変わらない輝きをみせる。
屋根：銅板一文字書き
この地の魅力として「さび」を抽出し、大屋根に採用するコルテン銅板は時間と共に風化する。

壁：RC造
屋根勾配に沿った2枚の耐力壁は空間に方向性を生んでいる。



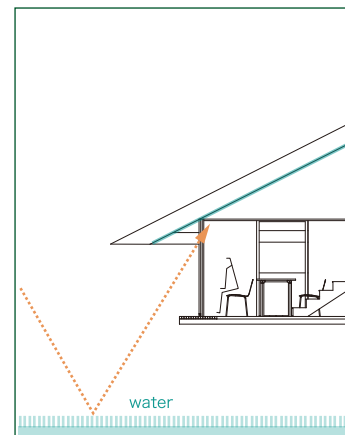
地球に生きる8つの設え

サステナブルな建築とは、地球環境負荷の低減、周辺環境への配慮、生活空間の豊かさなど、様々な視点を持って敷地の与条件を発見することで実現されるのではないかと。今回の敷地特性である水田と石垣の健全化、豊かな自然環境を享受するための設えを提案する。



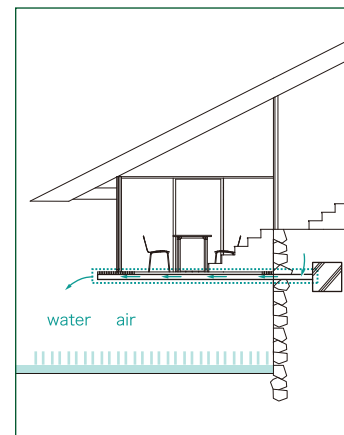
衣替える家

スノコ上の床によって夏季、水田からの涼風を室内に取り込む。冬季は断熱量を敷き、建築も衣替えるとする。



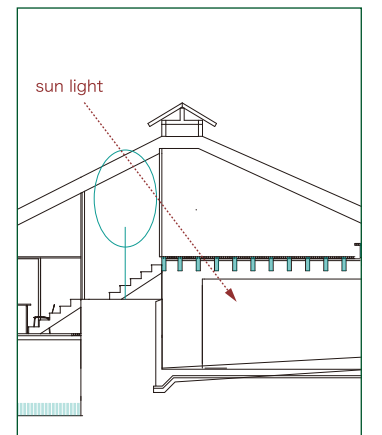
風景をつかまえる白天井

張り出した白い軒裏は、水田から反射した風景を映し出す。風の移ろいや紅葉など周辺環境の変化が室内を彩る。



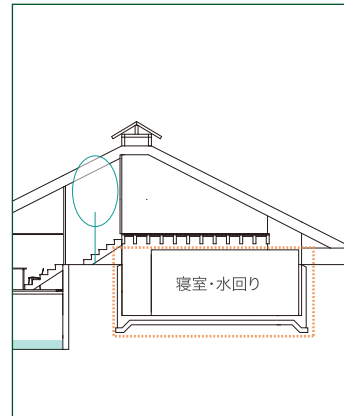
水と空気の循環を促す丸型梁

リビングを支えるパイプ梁は、地中の水や空気を抜く通気管の役割も兼ねる。



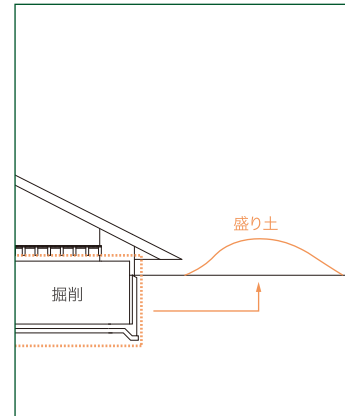
1.5階サンルーム

リズムカルに並ぶ梁は、直射光を和らげ落ち着きのあるダイニング空間をつくる。



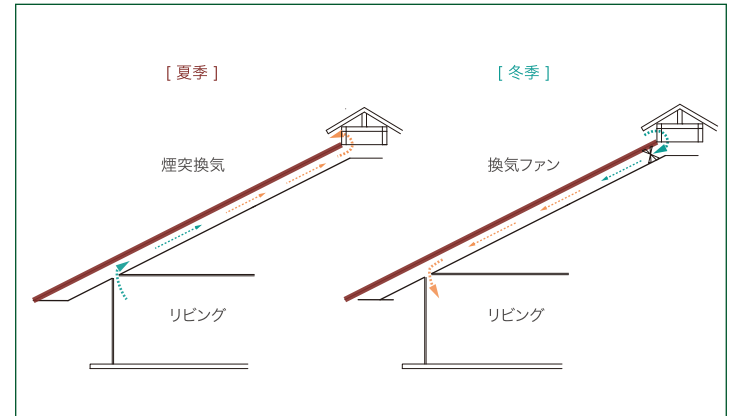
安定した半地下

土の蓄熱効果によって安定した熱環境を享受する。年中過ごしやすい空間があることで、外部・半外部空間を受け入れることができる。



掘削ランドルケーブ

掘削によって出る土を盛り土として活用し、周囲との距離感を調整する。



空気の流れを調整する大屋根

夏季：屋根に温められた空気による煙突換気によって室内に「風」を生み出す。冬季：屋根に温められた空気を上部に取り付けたファンによって室内に取り込む。